



# Red Hat OpenShift GitOps 1.13

## Argo CD アプリケーションセット

コントロールプレーン以外の名前空間でアプリケーションセットリソースを管理する



## Red Hat OpenShift GitOps 1.13 Argo CD アプリケーションセット

---

コントロールプレーン以外の名前空間でアプリケーションセットリソースを管理する

## 法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

このドキュメントでは、コントロールプレーン以外の namespace でアプリケーションセットリソースを有効にして管理する方法を説明します。

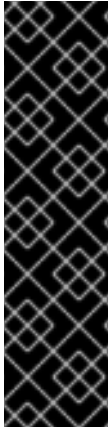
---

## 目次

第1章 コントロールプレーン以外の NAMESPACE でのアプリケーションセットリソースの管理 .....	3
1.1. 前提条件	3
1.2. コントロールプレーン以外の NAMESPACE でアプリケーションセットリソースの有効化	3
1.3. ソースコードマネージャプロバイダーの許可	4
1.4. 関連情報	5



# 第1章 コントロールプレーン以外の NAMESPACE でのアプリケーションセットリソースの管理



## 重要

コントロールプレーン以外の namespace の Argo CD アプリケーションセットは、テクノロジープレビュー機能としてのみご利用いただけます。テクノロジープレビュー機能は、Red Hat 製品のサービスレベルアグリーメント (SLA) の対象外であり、機能的に完全ではないことがあります。Red Hat は、実稼働環境でこれらを使用することを推奨していません。テクノロジープレビュー機能は、最新の製品機能をいち早く提供して、開発段階で機能のテストを行いフィードバックを提供していただくことを目的としています。

Red Hat のテクノロジープレビュー機能のサポート範囲に関する詳細は、[テクノロジープレビュー機能のサポート範囲](#) を参照してください。

アプリケーションセットを使用すると、単一のモノリポジトリーから複数のクラスターへの複数の Argo CD アプリケーションのデプロイメントを、より柔軟に、宣言的に自動化および管理できます。

Red Hat OpenShift GitOps 1.12 以降では、クラスター管理者は、要件に応じて **ArgoCD** および **ApplicationSet** カスタムリソース (CR) を明示的に有効化および設定することで、**openshift-gitops** コントロールプレーン namespace 以外の非コントロールプレーン namespace で **ApplicationSet** リソースを宣言的に作成および管理できます。この機能は、分離されたチーム向けに Argo CD アプリケーションのデプロイメントを管理するマルチテナント環境で特に役立ちます。この機能は、Argo CD オープンソースプロジェクトの **任意の namespace 機能の ApplicationSet** と呼ばれます。



## 注記

生成された Argo CD アプリケーションは、コントロールプレーン以外の任意の namespace にリソースを作成できます。ただし、アプリケーション自体は、アプリケーションセットリソースと同じ namespace に存在します。

## 1.1. 前提条件

- 定義した namespace に、ユーザー定義の **クラスタースコープ Argo CD インスタンス** がありません。たとえば、**spring-petclinic** namespace。
- 非コントロールプレーン namespace のアプリケーションリソースを管理するために、**ArgoCD** CR でターゲット namespace を **明示的に有効化および設定** している。

## 1.2. コントロールプレーン以外の NAMESPACE でアプリケーションセットリソースの有効化

クラスター管理者は、ユーザーが **ApplicationSet** リソースを作成、更新、調整できる、コントロールプレーン以外の namespace の特定のセットを定義できます。要件に応じて、**ArgoCD** および **ApplicationSet** カスタムリソース (CR) を明示的に有効化して設定する必要があります。

### 手順

- コントロールプレーン以外の namespace を含めるには、**applicationSet** 仕様の **sourceNamespaces** パラメーターを設定します。

## Argo CD カスタムリソースの例

```

apiVersion: argoproj.io/v1beta1
kind: ArgoCD
metadata:
  name: example
  namespace: spring-petclinic
spec:
  applicationSet:
    sourceNamespaces: ❶
    - dev ❷

```

- ❶ **ApplicationSet** リソースを作成および管理するための非コントロールプレーン namespace のリスト
- ❷ Argo CD サーバーが **ApplicationSet** リソースを作成および管理するためのターゲット namespace の名前



## 注記

現時点では、`.spec.applicationSet.sourceNamespaces` フィールドではワイルドカード (\*) の使用はサポートされていません。

2. 次のロールベースのアクセス制御 (RBAC) リソースが GitOps Operator により作成または変更されていることを確認します。

名前	種類	目的
<code>&lt;argocd_name&gt;-&lt;argocd_namespace&gt;-argocd-applicationset-controller</code>	<b>ClusterRole</b> および <b>ClusterRoleBinding</b>	Argo CD ApplicationSet Controller がクラスターレベルで <b>ApplicationSet</b> リソースを監視してリスト表示する
<code>&lt;argocd_name&gt;-&lt;argocd_namespace&gt;-applicationset</code>	<b>Role</b> および <b>RoleBinding</b>	Argo CD ApplicationSet Controller がターゲット namespace の <b>ApplicationSet</b> リソースを管理する
<code>&lt;argocd_name&gt;-&lt;target_namespace&gt;</code>	<b>Role</b> および <b>RoleBinding</b>	Argo CD サーバーが UI、API、または CLI を介してターゲット namespace の <b>ApplicationSet</b> リソースを管理する



## 注記

Operator は、`argocd.argoproj.io/applicationset-managed-by-cluster-argocd` ラベルをターゲット namespace に追加します。

## 1.3. ソースコードマネージャプロバイダーの許可





## 重要

このセクションを注意深くお読みください。誤った設定は潜在的なセキュリティ問題を引き起こす可能性があります。

コントロールプレーン以外の namespace で **ApplicationSet** リソースを許可すると、Source Code Manager (SCM) Provider または Pull Request (PR) ジェネレーターの悪意のある API エンドポイントを通じてシークレットが流出する可能性があります。機密情報への不正アクセスを防ぐため、Operator は予防措置として SCM プロバイダーと PR ジェネレーターをデフォルトで無効にします。

## 手順

- SCM Provider と PR ジェネレーターを使用するには、許可される SCM Provider のリストを明示的に定義します。

### Argo CD カスタムリソースの例

```

apiVersion: argoproj.io/v1beta1
kind: ArgoCD
metadata:
  name: example-argocd
spec:
  applicationSet:
    sourceNamespaces:
      - dev
    scmProviders: 1
      - https://git.mydomain.com/
      - https://gitlab.mydomain.com/

```

- 1** 許可された SCM Provider の URL のリスト。



## 注記

許可された SCM Provider のリストにない URL を使用すると、Argo CD ApplicationSet コントローラーはそれを拒否します。

## 1.4. 関連情報

- [ApplicationSet](#) リソース
- [任意の namespace の ApplicationSet](#)
- [Argo CD のカスタムリソースとコンポーネントのプロパティ](#)
- [SCM Provider ジェネレーター](#)
- [Pull Request ジェネレーター](#)